2006 年 2 月 24 日

“Z4 by Joshua Davis - 最先端のデザイン・プロジェクト”
新 BMW Z4 クーペを、コンピュータで作り上げた独特の世界で表現

ミュンヘン／ニューヨーク発：可能性の枠を超えて更に高いレベルを求め、固定観念を打破して思い切った冒険をしたいと考えるのがアーティストというもの。例えば、ほんの数年前まで、新 BMW Z4 クーペのような、意匠を凝らしたラインや複雑な凹凸を持つパネルから成り立つデザインは、量産は不可能だと考えられていました。一方、ニューヨークに拠点を置くデザイナーのジョシュア・デービスにとって、実現できるかどうかが問題となることは日常茶飯事。彼の作品はコンピュータで作られ、その作品は印刷するには複雑すぎると考えられていました。そして、この共通項こそが、新 Z4 クーペにインスピレーションを受けた独特の世界観を持つ作品を限定で製作するという、デービスと BMW のコラボレーションのきっかけとなったのです。

1 つの画に、数千レイヤーのイメージ

34 歳のデービスは、アルゴリズム・グラフィック・デザインの草分け的存在です。彼の作品はロンドンのテート・モダン、パリのポンピドゥー・センター、ニューヨークの P.S.1 MoMA など一流の美術館に展示されました。そして、BMW Z4 クーペの発売開始を 2006 年半ばに控え、デービスが BMW のために製作し、高性能カラープリンタで出力した 3 種類の作品が、本日より専用のウェブサイトで購入が可能となりました。作品にはそれぞれサインとシリアルナンバーが入れられ、1 枚ずつデザインが異なるのが特徴で、まさに世界に 1 枚だけの作品となります。

ジョシュア・デービスの作品は、現実の世界を解体し、それをランダムに再構築するコンピュータ・プログラムから生み出されます。デービスはこの手法を 1995 年に完成させ、以来、この手法を発展させてきており、今や全く独自の絵画的世界を作り上げています。そして、その複雑さたるや、人間の画家が手で描くとしたら、一つのモチーフを完成させるのに何週間どころか、何ヶ月かかるかさえわからない、というほどの複雑な世界です。最新式のハイテク機器を備えた印刷所さえ、その多くはデービスのデザインにはお手上げです。デービス自身が確信を持って、「私の作品に使われているレイヤーは 12 万、ベクトルは 5 万にもなるので、通常だとプリンタの方がいかれてしまう。印刷するには、高度な後処理編集技術が不可欠」と断言しているくらいなのです。

自動車デザインとグラフィック・デザインの出会い

デービスが、新 Z4 クーペと出会ったのは、最終的なデザインがまだ機密扱いだった時でした。BMW チーフ・デザイナーのエイドリアン・ファン・ホーイドンクは、ミュンヘンを訪れたデービスに、その斬新なデザインコンセプトと、BMW の新しいデザイン要素を秘密裏に披露しました。これに創造意欲をかきたてられたデービスは、クーペの外観や構成要素を、今回の作品のベースとなるデジタル数式に変換しました。それは無数のコードをチェックして残すものを選別し、その他はゼロから作り上げるという非常に複雑なプロセスでした。さらに、ドイツの学校の地図帳から地図記号や縮尺目盛りを抜粋し、作品の中でモビリティを表現しました。また、全体が常に回転しているような効果をかけることで、プロペラが回転する姿をデザインした BMW のロゴを彷彿とさせています。さらに、デービスは自身の作品の多くで用いている、アメリカのテレビ番組“Lost”シリーズのファンなら分かる、島のような物体など個人的な好みのデザインも取り入れました。

このようにして、デービスは 3 ヵ月間集中的に作業を行い、今年 1 月に正式に印刷プロセスを開始しました。印刷は 1 枚 1 枚、彼の監修のもとで行われます。デービスは「ニューヨークのスタジオにあるプリンタは、僕のデスクからちょっと離れた所にあるだけなんだけど、ここ数ヶ月はフル稼働しそうだから、ものすごく忙しくなると思うよ」と笑います。それほど、デービス自身にとって Z4 プロジェクトは重要なものなのです。デービスは「自分の作品をそれにふさわしい印刷物の形で残すのは今回が初めてだからね。それぞれが世界で 1 枚だけのデザインでもあり、全体では 1 つのシリーズになっているから、一見してパラドックスのように見えるかも知れない。でも、それこそが、僕のオリジナルである進行型プログラムの創造的可能性なんだ」と語っています。

基本原則の中にあるランダムさ

つまり、デービスは今回の作品は、既存のデザイン芸術の枠を超えた存在とみなしています。「今回の作品では、決まったモチーフが印刷されるのではなく、プログラムコードが高速で処理する、一種の凍りついたイメージがプリントされて出てくる。ただ、そのイメージは僕が意識的に選択し編集していて、一度限りの印刷で出力しているんだ。」つまり、購入者が、作品の購入前に実物を確認することができないという事実も、デービスに言わせれば、「むしろ全体のコンセプトの論理的な終結として、それもアートの一部」なのです。「プロセスがそのまま作品化し、プロセスはランダム」なのです。

ジャン＝クリスチャン・クンダース（BMW ブランド・コミュニケーション・ディレクター）は、これに関し、「新しい Z4 クーペは、今最もスリリングな魅力を持った車と言えるだろう。そして、ジョシュアという、当代でも有数の先鋭的なアーティストを得て、本当に素晴らしいコラボレーションが実現した。彼は、革新的な技術を開発し、革新的に優れたデザインを創造したと思う」と語っています。

人間の心と機械の交流が生んだこの作品は、専用ウェブサイト（www.Z4byJD.com）でご覧いただけます。短編の“メイキング”映像では、作品がいかにして印刷されたのか、そして作品のサイズがどのように 24×44 インチ（60.96×111.76cm）になったのか、その方法を深く掘り下げて紹介しています。ジョシュア・デービスはこのプロジェクトの期間中、3 種類のデザインをカラープリントし、サインとシリアルナンバーを入れて、限定 500 枚製作します。価格は 1 枚 280 ドル（梱包及び送料、消費税別）です。

高解像度の写真は PressClub のウェブサイト（www.press.bmwgroup.com）からダウンロードできます。また、www.Z4byJD.com の専用サイトでもご覧いただけます。